

SC-IB News '17.12 No.13

コミッショナー &事務局通信



日本ジャンボレット高萩 2017 2017/08/4-9 開会式

<http://www.scout-ib.net/>

◆ 標準団を目指すということ その12

“ボーイスカウトは信頼できる団体なのか？”

2015年の6月にこの「コミ&事務局通信」の掲載を開始した時に、「標準団を目指す」ことについて、その主旨を述べました。そのときの文章を改めて掲載します。

「しかし、「標準」という言葉をよくよく考えてみると、**「標準」とはそれが当たり前の団の姿だ**ということなのです。もっと突き詰めて言えば**「全てのスカウトには、標準団における標準のスカウティングが提供される」**ということなのです。そう、提供することが団のつとめなのです。それを求めて保護者はこの運動を選び、スカウトは「ちかい」をたて、加盟登録料等を納入しているのですから。

「えっ！」……これはエライことです。こんな解釈を聞かされるのは、皆さん初めてでしょう。でも、改めてこう言われると、「そうだよなあ」と納得もしてしまいます。

基礎訓練や上級訓練を修了された方は、「班制教育（班制度）」や「進歩制度」「野外活動」という言葉の意味や機能をご存知でしょう。最近では「スカウト教育法の7つの要素」と言われていますが、実は、これらを本来あるきちんとした形で団がスカウトに提供することが、昔から求められており、団はそれを満たすべく、最大限の努力をすることがあたりまえだったのです。それがいつの間にかに崩れてしまいました。

その「団のつとめ（Duty: 責務）」をもう一度県連を挙げて組織的にきちんと取り組ん

でいこうというのが、冒頭の県連の重点目標の第1番目として「1.スカウトの確保と活動の充実を図り、標準団を目指す」を挙げた主旨なのです。」

……とお温習しいしたところで、さて、今回は、ボーイスカウトについて『広報』という目線で見えていきましょう。



ボーイスカウトの**広報活動**は、ボーイスカウトの運動の趣旨や活動を一般の方々に広くお知らせして、ご理解いただくことはもちろんですが、**このボーイスカウトが「信頼」のおける団体であることを示すことも**その大切な役目となっています。

現在の県連ホームページになってから2年が経過しました。しかしながら、この間、スカウトの減少に歯止めはかからず、茨城の、いや全国のボーイスカウト運動は危機的状況に向かっています。その原因はいくつもあるでしょうが、こと広報という立場から述べると、県連ホームページの各団の紹介に登録（掲載）している団があまりに少ないということが一因となっていると言わざるを得ません。世間からは**「信頼できない団体」**と映っているのです。なぜなら、現在、**県内44コ団のうち、情報掲載団は、たった16コ団**しかないのであるから。また、日本連盟の団紹介ページの茨城の団の掲載率も30%の13コ団でしかありません。

スカウトの「おきて」の最初に掲載されてい



るものは「スカウトは、誠実である」です。その意味は副文にあるように、「スカウトは、信頼される人になります。真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします。」です。

人々から信頼を失うということや、ボーイスカウトとしての名誉を傷つけるということについて、ベーデン-パウエル卿は、次のように、厳しく戒めています。

「スカウトが、嘘をついたり、名誉にかけてすると信用されているのに命令を正確に実行しなかったりして、自分の名誉を傷つけたら、スカウト章を返し、二度とつけないように命ぜられるかも知れないし、さらにスカウトをやめるように命令されるかも知れない。」と。

「たかだか団の情報程度で……」と言われる方がおられるかもしれませんが、ボーイスカウトが「信頼される団体」であるならば、ホームページへの団情報の掲載率は、限りなく100%に近くなければならないのです。「信頼」というものは、ひとつひとつの当たり前のコトを積み重ねて初めて得られるものです。

一般の方々は、日連も、県連も、地区も、団や隊の区別もしていません。ボーイスカウトは1つの団体として捉えており、33%しか加盟団情報を掲載できないボーイスカウトという組織は、いくら今まで先人たちが築いてきた伝統やブランドイメージがあったとしても、現実としては「自分の組織も統制できないダメな団体」と目に映るわけです。例えば99%の団で素晴らしい活動をしていたとしても、あとの1%の団のために「ダメな団体」にされてしまうのです。

厳しい言い方をすれば、今のインターネットやSNS等のネットワーク社会においては、「できて当たり前」、「できていなければ非難や攻撃の対象」となります。そこまではいかないにしても、前述のように「ダメ」という印象を持たれてしまいます。だったら「ホームページなんか作らなければならぬいいじゃないか!」と言われる方もおられるでしょう。しかし、そこから得られる情報があり、そして活用できる情報がそこにあることは、それを利用する多くの良き加盟員にとつては重要な情報源となっているのです。

さて、前文にも示しましたが、当県連の目標

の1つに「スカウトの確保と活動の充実を図り、標準団(隊)を目指す」があります。そのため当県連のホームページは、それを具現化したものであることが求められています。

具体的には、

- ① 信頼できる、安心・安全な団体であることを示すこと。
- ② きちんとしたボーイスカウトの情報を掲載し、提供すること
- ③ ボーイスカウトに関心を持つ一般の方が求める情報を掲載すること
- ④ スカウトや指導者の活動促進に繋がる情報を掲載すること
- ⑤ 茨城県連に属するすべての団の「募集」に関する情報を掲載し、募集の窓口とすること等です。

・・・と、ホームページの必要性・重要性について、改めてご理解いただけたと思います。



当県連のホームページが、スカウト運動のPRとスカウト募集窓口としての役割を果たして、スカウト運動の普及、スカウトの確保に繋がるべく、



上記⑤の「各団の募集に関する情報」の提供に取り組んでいます。また、日本連盟のホームページでも同様に各団の連絡先の情報の掲載しています。

私たちボーイスカウトが「信頼される団体」としてあり続けるために、そして、それによってスカウト数が増え、活動がますます活発となるように、その第一歩として、まずは、県内全ての団の情報の掲載率100%、を目指しましょう。

つきましては、別途、県連事務局から掲載情報提供依頼の文書が各団宛に送られます。ご協力をよろしくお願い致します。

□明日のための、その1

提出期限、申込期限等の厳守

11月に実施した「GBのつどい」にある団のスカウトが参加申込をしたにも関わらず、団で温めてしまい、県連事務局に届かず、危うく参加ができない・・・という出来事がありました。

地区コミッショナーが気づいて、何とか参加ができることになったのですが、その段階では、班編制をはじめほとんどの準備が終わっていたために、スタッフは、準備のし直しを余儀なくされました。これは一例ですが、その背景には、スカウトの組織でありながら、「約束(期限)を守らない」ことが蔓延、いや、美德?と考えている風潮があるのではないのでしょうか。(イヤミっぽくですみません)

私(県連盟コミ)がトレーニングに関わり始めた30年前でも、今ほどはひどくはありませんが似たような状態であったと思われます。

それから何度も「期限を守ろう!」「ルールを守ろう!」、が叫ばれてきました・・・が、結果に大きな改善は見られません。未だに平気で遅れて出してくる、中には事務局からわざわざ連絡をしてもなかなか対応しないという団すらあります。

であれば、期限日でスパッと締め切って、そ

の後は受け付けないということを徹底すればいい・・・のですが、なかなかそれには踏み切れない理由があるのです。

その理由とは、今回のGBのつどいの場合でもそうですが、「スカウトの落度ではないこと」で「スカウトが参加できなくなる」ということが生じてしまうからなのです。スカウトに非がないのであれば、たとえ申込期限を過ぎたとしても救済しなければなりません。そうしなければ、当該スカウトや保護者の不信につながります。「不信」は「信頼されることを名誉とする」をスカウト運動にとってはあってはならないことです。

そんなことで、期限を過ぎても受け付けざるを得ないことから、ずるずるとこんな状態が続いてきてしまったのです。

しかしながら、加盟登録数が減少し、ボーイスカウトが危機的状態となった今、この運動組織を見直すことが急務となり、そのためには、加盟員1人ひとりが、ここで「スカウトとは何か、このスカウト運動とは何か」をしっかりと考えて、本来のスカウティングを実践しなくてはなりません。その第一歩が**このボーイスカウトが「信頼**

のおける団体であることを身を以て示すことなのです。加盟員自らがそれを実践し続ける姿勢によって「信頼」は得られるはずですが。

そこで、まずは申込期限・提出期限を守るところから取りかかりましょう。

今後、指導者研修、スカウト訓練等への**申込書の提出、各種提出物の提出期限**については、明記された**期限内に必ず到着するように提出**してください。提出期限(日時)必ず確認をして、それに十分に間に合うように団・隊内のメ切を設定してとりまとめ、余裕を持って忘れずに提出先に提出をしてください。

メ切を過ぎて提出された場合は、受付をしません。この措置については、平成30年1月から実施します。

●コミッショナーの推薦と署名捺印が必要な申込書類について①

ジャンボリー参加申込等の「地区コミッショナー」や「県連盟コミッショナー」の推薦及び署名捺印が必要なものについては、メ切時にその署名捺印を得ていることが必要です。

●コミッショナーの推薦と署名捺印が必要な申込書類について②

ウッドバッジ研修所への**申込み**については、今後は、全ての提出書類を整えて、地区コミッショナーに提出します。**提出期限の日**は、**地区コミに提出する日**です。ご注意ください。

◆ 指導者上級研修、 団委員長上級研修修了



2017年12月3日の理事会において、指導者上級訓練課程・ウッドバッジ実修所ボーイスカウト課程を修了した、阿見第1団ボーイスカウト副隊長・石井利明さん（写真左）にウッドバッジと修了証の伝達が、また、団指導者上級訓練課程・団委員長実修所を修了した、水戸第8団団委員長・友部昭男さん（写真中）、同じく水戸第8団副団委員長・園部恵子さん（写真右）に修了証の伝達がありました。

また、写真はありませんが、9月には、指導者上級訓練課程・ウッドバッジ実修所ベンチャースカウト課程を修了した、水戸第6団ベンチャースカウト隊長小森谷直美さんに、ウッドバッジと修了証の伝達が行われました。

近年になく、修了者が多い年となりました。皆さんも、WB実修所、参加してみませんか？

◆ 来年度のウッドバッジ研修所スカウトコースの 課題研修が変わります。

来年度に、ウッドバッジ研修所に参加を予定されている方は、いくつか変更点がありますのでご注意ください。

●変更点その1

県連では春秋の2回ウッドバッジ研修所スカウトコースを実施する予定です。

（春）5月3日（木・祝）～6日（日）

（秋）10月5日（金）～8日（月・祝）

です。

それに伴う、課程別研修は、

（春）5月27日（日）BVS-VS全課程

（秋）10月8日（月）BVS-VS全課程

です。これを見て???と感じた方もいるでしょう。

春は課程別研修を別の日に行う「基本型」で、秋はWB研修所の最終日に行う「一括型」で実施します。（来年からは一括型は行いません）

●変更点その2

来年から「課題研修」の課題が変更になり、全て「事前訓練」に参加してコミやTTの指導を受けることになりました。

課題は3つで、それぞれ「指導を受けた内容を記述してください。」という文で結ばれています。この課題の変更は、団委員研修所やコミッショナー研修所も同様です。

課題への取り組みは、従来通り各地区で行われる「事前訓練」に参加し、トレーナーやコミの指導を受けることを行います。今後は、指定された「課題研修まとめ用紙」（A4版1枚）に3つの課題回答を記述します。今までのように、枚数を多く各必要はありませんが、要点を端的に要領よくとめて書くことが必要となります。

●変更点その3

3つ目は、「申込書」と「課題まとめ用紙」の提出期限と方法です。

来年度のコースから、**申込期限内に「地区コミッショナー」に提出すること**とします。

課題終了後、申込書と課題まとめ用紙をセットにして、まずは①団委員長の同意（署名捺印）をもらいます。それをもって、申込期限内に②地区コミッショナーに**3月24日（土）**までに提出ください。

地区コミッショナーは、申込書と課題に不備がないかを確認します。不備があれば、差し戻しされ、修正した後OKであれば、推薦署名捺印をして地区コミから県連コミに送ります。

事務局では受け取りません。また提出期限を過ぎたものは、理由を問わず受け取りません。

今から余裕をもって準備してください。

◆ 指導者のつどいは 県内統一ラウンドテーブル!! (予告)

テーマ 指導者としての足下を固めよう!

「ちかい」と「おきて」、 「スカウト精神」

H28年2月4日（日）土浦市青少年の家（予定）

今年の第2回目の指導者のつどいは、「ちかい」と「おきて」と「スカウト精神」です。

「なんだあ、面倒くさいテーマを持ってきたなあ・・・。今回は「パス!!」は、パスですよ!

しかし、皆さんもご存知の通り、スカウト運動の全て（活動への取り組みだけではありません）は、この「ちかい」と「おきて」を理解して、自らの意志で実践することを前提にあるのです。そして、それを具現化した意識や姿勢、心構えというべきものが「スカウト精神」なんですね。

今回は、そのスカウティングの根本である「ちかい」と「おきて」と「スカウト精神」を良く理解しよう! そしてスカウトたちがそれをちゃんと身に付けられるようにしよう! スカウティングのプログラムに反映できるようにしよう! を一緒に

学んでいきましょう。

そもそもが「ちかい」と「おきて」の勉強って言うと、小難しい講釈を聞かされて、しんどいものってイメージが大きいと思います。ある本に出ていましたが、興味のあることはすんなりと脳にインプットされ、興味のないものはシャットアウトするという人間の脳の特徴があるそうです。ということは、楽しみながら好奇心を刺激するもの体験型のつどいであれば、小難しい「ちかい」と「おきて」もすんなりと入り込むんじゃないのかな・・・。

ということで、今回の指導者のつどいは、県&地区のコミッショナーの総力を挙げて「楽しい」つどいとなるよう、いろいろと準備をしています。請うご期待。

その次の県内統一ラウンドテーブル第2弾!
6月「指導者のつどい」は・・・

「楽しい“外”あそび その1」

のテーマのもと、1泊2日で、指導者だけのゆる〜いキャンプをしながら、いろいろなプログラムを自発的に楽しんじゃいます。

みんなで楽しいプログラム（外遊び）を教え合いっこしませんか。

●隊や団の単位で、自由にキャンプ。

（キャンプ用具と食材は一式持参）

●夜ご飯は自由に交流。

●みんなでプログラムを持ち寄って「この指とまれ」方式で参加を募って実施。

●キャンプファイアも、演目自由。

●自らすすんで積極的に参加しましょ。

6月2日（土）～3日（日）で

場所は 高萩スカウトフィールドを予定。

◆ ラウンドテーブル・・・ちょっと変わったことに気がつきました？

今年の6月の実施したラウンドテーブルですが、進め方が変わったことに気づかれたでしょうか。

今年からウッドバッジ研修所が「スカウトコース」と「課程別研修」に変更になり、その指導の考え方は従来の「自らの気づきを促す」というやり方から「具体的にやり方を示す」に大きく変わりました。

「スカウトコース」は、ボーイスカウトの「基本」についての視点を変えたことです。今まで、部門のことを良く知って隊長としての持つべき知識を獲得することを重視して組み立てられていました。しかし、スカウトコースでは、指導者が身につけるべき意識と姿勢、そしてボーイスカウト活動を本来の楽しく魅力的な、かつスカウト自身が自らを成長させられる野外における活動が展開できる力を修得できることを重視した内容となりました。

スカウトコースでは、3泊4日というまとまった期間、そして多くの参加者によらなければ得られないことを重視し、書籍等では知るコトが難しい指導者としての意識、対スカウトへの姿勢や関わり方、基本動作、野営やハイキング等のノウハウ、班制度の具体的な在り方などを、実際に体

験にすることで身につけていきます。

「課程別研修」は、今までのような、各部門のプログラム立案過程（プログラムプロセス）がたった数時間の概略だけとなりました。

このように、今までのウッドバッジ研修所の中で、隊長にとって大変重要であるものが提供されなくなってしまいました。それも、隊長としては、それらは身に付け・理解していなければならないものにもかかわらず・・・です。

では、それをどこで習得すればいいのでしょうか。隊長ハンドブックを熟読するという方法がイチパンの近道です。しかしながら、実際に隊活動を行っていくためには、いろいろなHow toやKnow howが必要となりますが、隊長ハンドブックの行間をいくら読んででもそれを得ることはできません。

そこで、日本連盟コミッショナーは、ラウンドテーブルの「指導者の勉強会」としての本来の役割を拡大し、現指導者訓練体系で踏み込めない部分を担っていくという方針を出したのです。

それを受けて、茨城県連のコミッショナーグループでも、ラウンドテーブルの位置づけと運営について昨年からの研究を始めました。そして、今年度から次の方法でラウンドテーブルを行う

こととしました。

○ラウンドテーブルの新たな位置づけとは

- ・県内同一テーマで、同時に開催する。
- ・開催の単位は地区。主宰は、従来通り地区コミッショナー。
- ・実施内容は、ラウンドテーブル年間計画に基づき実施する。
- ・地区内のTT&Tトレーナーは、参加者であり、かつ勉強会の講師インストラクターとして関わる。

です。

○ラウンドテーブルのもうひとつの側面

また、指導者が、隊長・副長としての「任」を受けるとことはスカウト達に常に「ベスト」を提供することです。その気概を持ち続けることことは、大変なことであり、それを持ち続けられる環境がなくてはなりません。

そのエネルギーの補給場所であり、点火の場所として、このラウンドテーブルを位置づけていきます。

今後とも指導者にとって役立つ→スカウトの指導に繋がるラウンドテーブルをコミッショナー一同研究して作り上げていきますので、皆さん、出席してくださいね。

◆ 社会連携・広報委員会 ★ PRドリームチーム 募集中!!

キミもモデルでデビュー、する?!

日本連盟社会連携・広報委員会では、各県連盟の広報担当者や直接連携を取ることで、効率的かつ迅速な広報活動を行うことを目的として「PRドリームチーム」を募集しています。

主な構成員は下記の3種類のチームに当該する方々で、募集はチームTとチームSです。自薦・他薦により募集し、県連として相応しい方を日連に紹介し、日連の様々な広報活動に協力していきます。

なお、このチームは、PRに関連した特定のタスクごとに、全国の有志・ボランティア個々が力を発揮する場として機能するための流動的なチームであり、常設メンバーが相互に横に連絡をとりあったり懇親をしたりする「連合体」ではありません。通常の委員会等と異なり必要に応じたメンバーにより適稼働するものと致します。(任期1年。年度毎に更新確認)

また、このチーム活動に要する費用は原則としてボランティアです(手弁当・自腹)。

【チーム構成】

●**チーム M** (PRマネージャー：県連盟等の広報連絡担当)

●**チーム T** (タレントチーム：全部門のスカウト、指導者)

→写真・映像の被写体、出演者、取材に答える通信員など

●**チーム S** (スペシャリストチーム：VS以上のスカウト、指導者)

→写真・映像の撮影や編集、イラストレーター、記事編集、ネット発信・拡散(ブロガー、インフルエンサーなど)等プロ、ハイアマチュアの方

【活動の例】

1. 日本連盟のPR資料等のための写真および動画の撮影協力、出演等
2. 日本連盟が製作するPR媒体、動画等の製作支援実務等
3. 外部メディア等からの取材依頼への対応、執

↓ みんな素人です。



筆等

4. 所管機関(隊・団・地区・県連盟等)における日本連盟PR事業協力調整

【登録条件と方法】

加盟員に限ります。

所定の申込用紙(県連HPにあり)にて、**所属団の承認後、県連盟事務局に提出**ください。

【その他】

チームTは、タレントとして活動している人だけでなく、写真のモデルや映像の出演者をやってみてほしい!! という「シロウト」でも応募できます。日連カタログモデルはみんな素人です。

また、他薦の場合は本人の承諾が必要です。同時に、未成年の場合は、保護者の同意が必要となります。